

検査部からのお知らせ

第3号

(平成26年2月20日発行)

臨床検査適正化委員会が発足しました。

平成26年1月15日に検査部内に臨床検査適正化委員会が開設されました。この委員会は、1) 臨床検査適正化に関すること、2) 臨床検査精度管理調査に関すること、3) 臨床検査精度管理のために必要と認められることなどを審議します。構成メンバーは病院長、検査部の部長、副部長、医員、内科系・外科系の医師、感染症科の医師、医療情報系の医師、臨床検査技師、事務系職員で構成されています。活動内容は、臨床検査データの精度管理結果について、幅広く臨床医の方々に審議をお願いして、臨床検査に関するさらなる改善のための指導を受けます。また、検査部で発生したインシデントについても検討確認を行います。

平成26年2月6日には、第1回臨床検査適正化委員会が開催されました。塚田病院長より委員長の互選による選出について提案があり、北島検査部長が委員長に選出されました。次に、日本臨床検査技師会の精度管理結果およびCAP国際臨床検査成績評価の結果について審議され、問題のあった結果について改善策等の対応状況について報告があり、改良試薬の導入などについて意見交換されました。また、設問形式の調査については、提出時に複数の技師による確認を行うことと定期的に症例検討会や循環器の医師との読影会に参加することになりました。

インシデント報告と対応については、外注検査項目が一般競争契約に移行したことで、検査項目により方法、基準値、単位が変更となり、これに伴うマスター変更作業が増えインシデントが発生した。そこで、複数人による変更事項のダブルチェックの実施や検査部情報誌による検査項目変更の周知などについて意見交換されました。今後は1~2ヶ月に1回程度開催することが決まりました。諸先生方にはますますのご指導とご助言をお願い致します。

臨床検査適正化委員会メンバー

○委員長

北島 勲 (検査部長)

○委員

塚田 一博 (病院長)、仁井見 英樹 (検査部副部長)、薄井 勲 (第一内科)、平井 忠和 (第二内科)

和田 暁法 (第三内科)、鳴河 宗聡 (感染症科)、釈永 清志 (手術部)、原田 健右 (検査部)、

中川 肇 (経営企画情報部)、野手 良剛 (検査部技師長)、桑原 卓美 (検査部副技師長)、

横田 綾 (検査部副技師長)、川島 猛志 (検査部品質管理者)、坂本 純子 (検査部技術管理者)、

片沼 晶子 (検査部技術管理者)

外注検査について

1. 平成 26 年 2 月 5 日（水）受付分より、一時受託中止していましたが結核菌インターフェロン- γ 測定（クオンティフェロン）を再開致しました。BNP を緊急検査ホダに、Nt-proBNP を時間外検査ホダに追加致しました。
2. 平成 26 年 2 月 17 日（月）受付分より、MAST 33 アレルゲンについてアレルゲンの内容が一部変更となりました。詳細は下記の内容をご参照下さるようお願い致します。

記

変更開始日：平成 26 年 2 月 17 日（月）受付分より

対象項目：MAST 33 アレルゲン

変更点	中止項目	新規追加項目
対象アレルゲン	ハルガヤ	キウイ
	ペニシリウム	バナナ
	クラドスポリウム	ゴマ
	アスペルギルス	ブタニク
	チェダーチーズ	オボムコイド

* 基準範囲等の変更はございません

ご不明な点は、検査部外注受付（内線 7740）、または生化学検査室（内線 7742）までお問い合わせ下さい。

細菌検査について

1. 全自動細菌検査システムのバージョンアップおよび新しいパネルの採用に伴い、薬剤感受性検査のブレイクポイントが変更されました。従来、カテゴリー判定は CLSI M100-S19 の基準で判定しておりましたが、1 月の移行期間を経て 2 月より CLSI M100-S22 に基づき判定を行います。
腸内細菌および緑膿菌の β ラクタム系薬の一部に変更が生じます。
2. 新しいアンチバイオグラム（抗菌薬感受性率）が出来ました。集計期間は平成 25 年 1 月 1 日から 12 月 31 日です。今回の特徴は *Staphylococcus aureus* を MRSA と MSSA に、*Escherichia coli* を ESBLs とそれ以外に、*Enterococcus* 属の総数も集計してみました。後日、各科宛に配布致します。感染症の治療にお役立て下さい。

詳細は細菌検査室（内線 7749）または感染症科（内線 7245）にお問い合わせください。

発行人 北島 勲

部署 富山大学附属病院検査部